

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO SPORTS北仙台教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 5月 1日		～	令和7年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和7年 6月 1日		～	令和7年 6月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 6月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育方針等について保護者様からの相談や事業所からの提案が行いやすくなっている。	・保護者様との連携や報告を密にし、日頃療育で行っている内容の振り返りを送迎時とケース記録にて行っている。 ・小学校、幼稚園様などとの担当者会議を設定し、利用児・保護者様の意向を検討、実行を迅速に行っている。	・保護者様とのコミュニケーションを増やすことで、ご意見などを支援計画作成時や送迎時にいち早く聞き取りを行う。
2	多機能型施設として、児童発達支援との運営を継続して行っている。	・多機能型施設としての役割・療育内容などの見直しを行い、利用児ごとへの対応方法を職員会議等で話し合っている。	・定期的な職員会議の設置を行い、職員との連携を図って役割の明確化をする。 ・職員、保護者様とのコミュニケーションを大切にし、利用児の様子を細かく報告をして理解を深めていく。
3	小学校様等との連携が密になっている。	・利用児の学校での様子のヒヤリングを通所日に欠かさずに行い、小学校様と事業所の対応方法などの統一を図っている。 ・担当者会議を行う際は作成資料の配布と方針の決定を行い、保護者様の意向に沿って対応している。	・ヒヤリングのみではなく事業所内での様子や対応方法の提案を自発的に行い、利用児に対する事業所の役割を明確化する。 ・担当者会議設定後に個別支援計画書の見直しや達成目標の明記を行って、具体的な方針を決定する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員・利用児に対する会議を行っているが、改善策などを実行するまでに時間がかかっている。	・会議時には見直しを含めた反省点の共有を行っているが、課題解決に向けた具体的な方針が定められずにいる。	・注意・反省点のみで終わらずに、次の療育にどう繋げていくかの話し合いを行う。 ・会議後には再度議事録からの見直しを行い、具体的な方針や対応方法の決定を期限を設ける。
2	職員間での自発的な意見や報告が上手く出来ていないため、業務効率の改善が難しい。	・通常業務に追われている場面が多く見られ、職員間の関係性が薄くなって自発的にコミュニケーションを取ることが出来ない。 ・コミュニケーションを取れていないことによる連携、伝達不足が多々見られる。	・通常業務の分担や役割の設定を行い、それぞれの業務に責任感を持って業務に向き合う。 ・コミュニケーションを取ることで利用児に対する伝達や、保護者様からの意見を迅速に聞き取る。
3	理学療法士、言語聴覚士などの専門的な職員が居ないため、療育内容の改善や発案が滞ってしまう。	・入社時の資格の有無の確認や、事業所での資格取得が難しい状態になっている。	・採用時に専門職員の採用、入社を行い、療育内容の改善等を意欲的に行っていく。